

# 大／阪／の／建／築／まちあるき——「やお・かしわら」

きんぎにつぼんてつどうどうみょうじせんりつきょう  
近畿日本鉄道道明寺線陸橋



奈良街道陸橋



第一号溝橋



第二号溝橋



斜めの端部



赤と黒の帯状装飾

所在地： 柏原市上市2丁目  
最寄駅： 近鉄道明寺線「柏原南口」  
参考資料：月刊考古学ジャーナル NO569  
JR 関西線と近鉄道明寺線の鉄道煉瓦構造物

近鉄道明寺線は藤井寺市道明寺駅を起点とし、JRと共用する柏原駅を終点とする2.2kmの単線路線である。

明治31(1898)年3月に「河陽鉄道」が柏原～道明寺～古市間を開業。しかし、営業不振により「河内鉄道」へ引き継がれ「大阪鉄道」「関西急行鉄道」を経て昭和19年(1944)に近畿日本鉄道となった。(近畿日本鉄道で最古の路線)「河陽鉄道」開業ときに構築された橋梁や陸橋が現存するが、今回はその内の3つの陸橋を紹介する。

柏原南口駅に南接する「奈良街道陸橋」は橋台が煉瓦で構築されており、イギリス積みを採用している。「鼻黒」と呼ぶ、小口部分が黒っぽい焼き過ぎ煉瓦を小口積みの段に使用し、赤と黒の帯状に見えるポリクロミーと呼ぶ装飾的技法を用いている。

柏原南口から柏原へ築堤を下る途中に「二号溝橋」「一号溝橋」がある。共に細い市道を跨ぐのだが、線路と市道は直行せず、斜めに交わっている。橋台にフランス積みを採用している。橋台の隅部が直角でない為、煉瓦を積む際に余分な突出部を切断するので、表面より焼きの浅い断面が現れ、隅部全体に煉瓦表面の赤色と断面のピンク色の濃淡ができ、結果的にポリクロミーのような装飾的効果を生んでいる。

「一号溝橋」は背伸びをすれば、手の届くようなところを電車が通過する為、その迫力に圧倒される。

(辻野忠彦)